インタビュー

中東退避オペレーション・ドキュメント

インターナショナル SOS は、ある日本企業の駐在員と帯同家族約150人をカタールから
サウジアラビア経由で退避帰国させた。
そのオペレーションの詳細を日外協・海外安全センター長の牧野茂が聞いた。

取材対応　インターナショナル SOS ジャパン株式会社
リージョナルセキュリティディレクター ノースアジア　福間　芳朗さん
シニアセキュリティマネージャー　ジャパンリード　渡邉　信也さん
ヘッドオブメディカル＆セキュリティアシスタンス ジャパン　井口　章律さん
医師・メディカルディレクター　湯井真紀子さん

邦人150人の一斉退避計画

―― 今回の退避オペレーションの概要を教えてください。

グローバル企業の当社では、全世界で千数百人のクライアントの中東退避を支援しました。主に日本企業をクライアントとする東京拠点でも、幾つかの案件に対応しておりますが、中でも今回の、１社で約150人に及ぶ駐在員と帯同家族が一度に退避した事例は、規模としては非常に大きな事案でした。対象者は全員日本国籍で、その中には10歳以下のお子さん40人ほどに加え、複数の妊婦の方もおられました。

当時（３月上旬）は、カタールの空港で商用便のキャンセルが相次いでおり、空路による退避は現実的ではないと判断。比較的安定して運用されていたサウジアラビアのリヤド空港まで陸路で移動し、そこから日本へ退避する方法が最も実現性が高いと考えました。

そこで、日本と当社のグローバル拠点（ドバイ、ロンドン）が連携をするかたちで、車両手配や航空機手配、医療対応、オペレーション管理など複数のチームが同時並行で動き、日本からは、セキュリティチームのメンバーが現地入りしました。

カタールから50人乗りのバス８台、７～８人乗りの大型 SUV４台、民間救急車１台による車列を組み、３月11日の朝５時（現地時間）に出発。リヤドのホテルに到着したのは21時頃で、約16時間に及ぶ移動でした。



サウジアラビア・リヤドのホテルからの眺め
©2026 International SOS Japan. All rights reserved.

16時間に及んだ陸路退避

―― 陸路退避の状況は？

まず、それぞれの車両における責任者を指名して、走行中の途中経過や車内の状況、特に体調不良などの情報を常に共有していました。途中の食事は、150人分の軽食を準備しましたが、